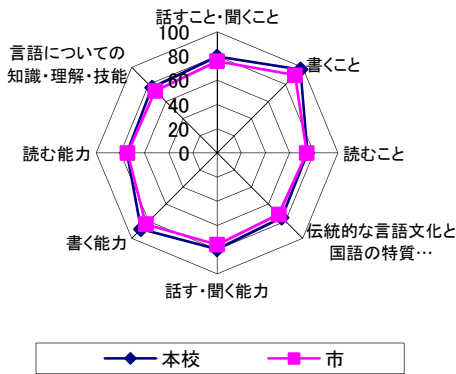


宇都宮市立昭和小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	79.7	75.9	72.1
	書くこと	97.6	91.0	79.2
	読むこと	74.7	74.1	71.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.6	72.0	73.0
観点別	話す・聞く能力	79.7	75.9	72.1
	書く能力	89.1	83.3	72.2
	読む能力	74.7	74.1	71.1
	言語についての知識・理解・技能	76.2	72.5	72.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

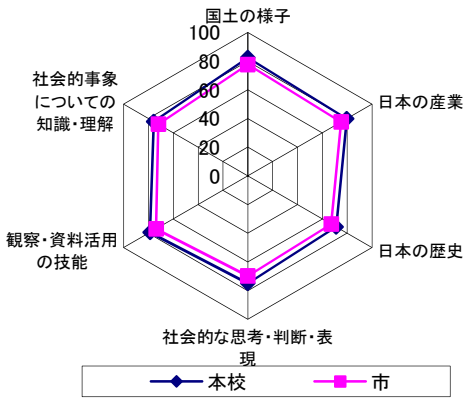
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・平均正答率は約79.7%で市の平均を3.8ポイント上回っており、ほぼ身についているといえる。 ・話し手の意図を考えながら話の内容を聞く問題は97.6%と高く、市の平均を6.1ポイント上回っているが、司会者の役割を理解して、計画的に話し合うことができるかを問う問題は正答率48.8%と市の平均より0.5ポイント下回っていた。	・今後も1分間スピーチなどを継続し、自分の意見をしっかりと伝えられるようにするとともに、相手の意図を考えて聞いたり、自分の考えと比べて聞いたりする習慣をつけ、考えながら聞くことができるようにする。 ・国語の学習を中心に他教科や学級活動等においても、話し合いの流れを考えながら、発言を整理していく司会者の役割を体験させ、相手の発言を流れの中で理解させ、まとめていけるようにさせる。
書くこと	・平均正答率は97.6%で、領域別で最も高く、また市の平均を6.6ポイント上回っており、よく身についているといえる。 ・2つの意見を読んで、どちらの意見に賛成か、立場を明らかにしながら自分の意見を書く問題であったが、指定された長さで、自分の意見とその理由を区別して書くことについては100%と全員が書くことができた。	・今後も、作文の学習の他にも日記や学習の振り返りなどいろいろな場面や機会を通して、自分の考えを書かせる指導を継続していき、目的に応じた文章表現の技能を身に付けさせていく。 ・書く内容に応じて、文章構成を考え、段落に分けたり例を挙げたりして、筋道を立てて分かりやすく書くような工夫を心がけさせる。
読むこと	・平均正答率は74.7%と市の平均をやや上回っている。 ・物語文においては、登場人物の心情を読み取るのは正答率が85%以上で身についているといえるが、叙述を味わって読み取る問題では34.1%と市の平均を8.9ポイント下回っていた。 ・説明文においては、文章の内容や相互関係を読み取る問題は85%以上と身に付いているといえるが、資料とパンフレットを読み取る問題では60%と低かった。	・文学的文章では、登場人物の会話や行動から登場人物像をとらえたり、文章表現から想像力を働かせて読み取ったりする指導を丁寧に行い、さらに読解力を付けるようにさせる。 ・説明的文章では、接続詞に着目して段落と段落の関係や文章の構成を考えさせたり、中心となる語や文をとらえて文章をまとめたり、理由や根拠などに着目させながら読んだりすることに力を入れる。また、資料から情報を
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・平均正答率は75.6%と市の平均を3.6ポイント上回っており、ほぼ身に付いているといえる。 ・漢字の読み書きについては、(講演、困難)の読みと、(罪)の書きは95%以上とよく身についているが、(寒暖)の読み(評価)の書きは理解が低かった。 ・言葉の学習で、熟語については78%とほぼ理解しているが、俳句や敬語については市の平均	・全学年の漢字の復習をさせるとともに、文章を書くときには履修した漢字を使うようにさせたり、ミニテストやまとめのテストなどを繰り返し実施することにより、漢字を定着できるようにしていく。 ・敬語については、練習問題で復習させるとともに、日常生活においても、常に相手や場面に応じて適切に使って話せるよう指導していく。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	82.4	77.6	77.6
	日本の産業	79.6	75.1	67.5
	日本の歴史	71.1	67.2	62.0
観点別	社会的な思考・判断・表現	74.9	69.7	64.7
	観察・資料活用	78.8	73.8	68.5
	社会的な思考・判断・表現	75.8	72.0	67.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

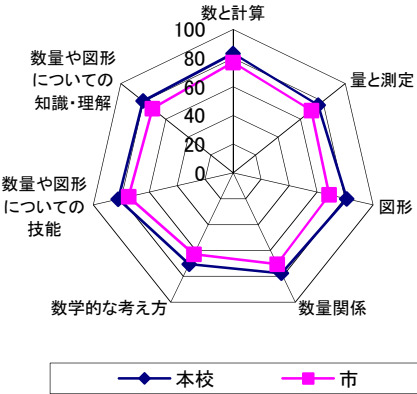
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	・平均正答率は82.4%で、市の平均を4.8ポイント上回っていてほぼ定着しているといえる。 ・日本を通る台風の数を示したグラフについて把握する問題は92.7%と高く、市の平均を5.5ポイント上回っていてよく理解しているといえるが、日本の周囲の国の国旗についての問題は75.6%と低く、市の平均を2.4ポイント下回っていた。	・我が国の国土の位置や様子や周辺の国、海洋名など、地図やグラフなどで復習していくとともに、資料からどんなことが読み取れるか考えさせ、学習の充実を図っていく。 ・今後も、児童が興味をもって取り組み、知識を定着できるようにデジタル教材、地図等の活用を図っていく。
日本の産業	・平均正答率は79.6%で、市の平均を4.5ポイント上回っている。 ・日本の食料生産にまつわる話題について関係の深い資料を把握する問題の正答率は97.6%と高く、市の平均を16.1ポイント上回っているが、日本の工業の移り変わりについて適切な資料を選択する問題は、市の平均を上回っているものの正答率は48.8%と低く不十分であった。	・学習に関連したテレビや新聞などの話題を児童に分かりやすく紹介したり、資料を掲示したりして、児童が興味をもって取り組めるような授業の展開を図っていく。 ・複数のグラフや資料から自分の考えをまとめさせたり、必要な資料を選択させたりするなどの学習活動を通して、社会的思考力を高めていく。
日本の歴史	・平均正答率は71.1%で、領域別では最も低いが、市の平均を3.9ポイント上回っている。 ・時代別に見ると、縄文時代～平安時代にかけての問題の正答率は77.2%と最も高く、市の平均を1.8ポイント上回っているが、鎌倉時代～室町時代にかけての問題は市の平均を上回っているものの、65.2%と低かった。資料を活用する問題の正答率は全体的に高いが、元寇についての理解の問題が48.8%と低かった。	・複数の資料から共通点を見出したり、自分の考えを述べるために必要な資料を選択したりする活動を継続的に行うことで、社会的な思考力・判断力を高めていく。 ・歴史的事象の名称や内容についての理解は図られているが、その意図や目的についてまで理解されていない。単に名称を覚えるだけでなく、その他の歴的事象との関連や時代背景などについても調べさせる機会を設け、理解を深めさせる。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	83.2	77.0	70.4
	量と測定	75.8	69.8	68.5
	図形	81.3	68.6	72.4
	数量関係	77.7	70.6	60.4
観点別	数学的な考え方	70.6	63.0	54.8
	数量や図形についての技能	82.2	74.7	67.3
	数量や図形についての知識・理解	80.4	72.0	74.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

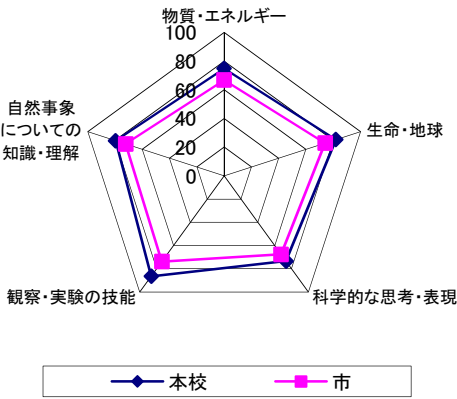
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は83.2%で、領域の中でも最も高く、市の平均を6.2ポイント上回っており、よく身に付いているといえる。 ・小数や分数の乗法や除法、分数、小数、整数の乗除混合計算の正答率はいずれも90%を超えて、よく身に付いているといえる。図を使って分数の除法の文章問題に合った式を選択する問題の正答率は市の平均を11.5ポイント上回っている	・小数や分数の乗法・除法の問題、2つが混じった計算では、日頃の学習の成果が表れている。さらに計算の技能を高められるように、練習問題を用いて繰り返し学習し、定着を図っていく。 ・文章題に重点的に取り組ませ、正解を求める過程を図や表で表すようにし、内容に合った正しい式が立てられるようにする。
量と測定	・平均正答率は75.8%で、市の平均を6ポイント上回っている。 ・三角形や四角形の面積や円柱の体積を求める問題の正答率は80%を超え、ほぼ身に付いているといえるが、単位量あたりの考えを使って、その方法を説明する問題の正答率は市の平均を7.6ポイント上回っているものの62.2%と低かった。	・面積や体積では実物で量感を感じたり操作したりしながら公式を求める学習を進めていたので、よく理解しているといえる。今後も操作的な学習を進めて公式を導き出させ、理解を確実にしていきたい。 ・単位量あたりの大きさや速さを求める問題では、文章問題において何が分かっているかが分からないのかを線を引くなどして考えさせ、実際の生活の場面と結びつけるなど、学習したことが生活に活用できるようにしていく。
図形	・平均正答率は約81.3%で市の平均を12.7ポイント上回り、ほぼ身に付いているといえる。 ・点対称な図形の対応する点を見つける問題や合同な三角形を作図する問題の正答率は100%と高いものであったが、五角形の内角の和を求める問題や円の半径から円周を求める問題の正答率は市の平均を約25ポイント上回っているものの約60%と低かった。	・対象な図形では、具体物を測定したり操作したりする活動を取り入れながら図形についての理解を進めてきたが、今後も様々な図形や生活場面で、図形を見る感覚を養っていく。 ・円周を求める問題では、半径と直径、円の面積と円周の概念が身に付いていないため混乱している児童も見られるので、図や操作活動を通して、しっかりと公式の意味を理解させて定着を図っていく。
数量関係	・平均正答率は約77.7%で市の平均を7.1ポイント上回っている。 ・比例や反比例の問題の正答率は85%以上で市の平均を約15%上回っており、よく身に付いているといえるが、比を使って部分量から全体量を求める問題の正答率は市の平均を5.6ポイント上回っているものの43.9%と低く不十分であった。	・比例と反比例については、表から数値を読み取るだけでなく、問題場面をイメージさせたり図に表させたりして、関係を見つけられるようにさせる。 ・割合については公式を理解させるとともに、問題文で何を求めているか考えさせていくことが必要である。また、割合の考え方は、日常生活のいろいろな場面で使用するので、実際の場面を通して理解を深めさせ、定着化図っていきたい。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	74.8	66.8	63.6
	生命・地球	81.9	74.0	75.3
観点別	科学的な思考・表現	73.4	67.6	65.0
	観察・実験の技能	86.5	73.8	70.4
	自然事象についての知識・理解	79.5	72.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・平均正答率は74.8%と市の平均を8%上回っている。 ・ふりこのきまりやものの燃え方と空気の問題では正答率が80%を超え、市の平均より10ポイント以上高いものが多く、理解が定着しているといえる。電流の強さと電磁石のはたらきの関係を調べる問題や水溶液の性質とはたらきの問題は、市の平均を上回っているものの50%台と低く、思	・実験した内容がよく身に付いているといえるが、今後も児童が興味をもって取り組めるような授業の展開をしていくと同時に、実験結果を予想させたり、実験結果から考えられることをまとめたりさせる活動を通して、科学的思考を養っていく。 ・学習した内容を、日常生活の中の物質に置き換えたり具体的に考えさせたりして、事象の仕組みや関係を考えていく力を育成していく。
生命・地球	・平均正答率は81.9%と市の平均を7.9%上回っており、身に付いているといえる。 ・人の誕生についての問題の正答率は85.4%と市の平均より18.2ポイント高く、また、太陽と月の形の問題も90.2%とよく理解しているといえる。植物のからだのはたらきでは、蒸散についての問題の正答率は95.1%と高く、理解しているといえるが、水の通り道を指摘する問題の正答率が43.9%と低く、市の平均を5.5%下回っていた	・植物や太陽、月など観察した内容を理解し、よく身に付いているといえる。しかし、体の仕組みや血液など、実際には観察できない教材もあるので、デジタル教材を使ったり、児童に図や絵や表などに表現させたりして理解を深めさせていく。 ・授業においても、ミニテストを行いながら学習内容を確認して基本的な知識の定着を図っていくと同時に、自然や生活の中の事象について、自分で考えたり文章で表